

い人達がそれぞれ左右に分かれて座つたと、笑いながら話していました。そういえば、山間部で寒いといつても轟の舞台の広さでは一個の囲炉裏でも十分と思われまます。やはり本当の話だったでしょう。その光景が眼に見えるようで吹き出してしまいました。まち研の調査資料を見ると、二個の囲炉裏があるのは上那賀と木沢に集中しているようです。やはり寒かったのでしょうか。

ゆにて設計事務所 白石高啓

愛媛から徳島に生活拠点に移り一年。徳島の環境は、愛媛で味わえなかつた水の豊かなアメニティ風土にふれ、感性が刺激される。特に、拝宮農村舞台では、「聖と俗」の程良い関係と「自然と人工」のプリミティブな構成は心憎いかぎり。何か体内にしみ入る快さがあつた。当日、手伝いに訪れていた町の人々の柔らかい表情には、このような文化をはぐくんできた誇りが漂っていた。

森 英樹

意義深い見学会でした。特に「山丸舞台設営」さんのお座敷マイクロボスは、舞台設営用備品材料を使ってバスの中も模様替えしてしまうのだから、舞台なんか朝メシ前だろうなあと感心させられてしまいました。演劇の三要素は「役者」「戯曲」「観客」と言われていますが、「戯曲」の代わりに「劇場」を加える人もいるほど現在では「劇場」は大切な要素となつています。拝宮農村舞台全景とロケーションの偉容は地域の人々に守られて現存していることが良く分かります。舞台前の観客席広場も整備が行き届き、舞台にしてもかなりの荷重に耐えられる作りとなつています。ただ舞台に二カ所「囲

炉裏」が掘つてあり、平舞台になるのか気になる点ではありません。農村舞台を使つての夜の公演となると、また大変、電気の容量も大丈夫なのか、舞台上部に照明器具用のバトン等の仮設が可能か、「拝宮農村舞台」を使つての公演ではまだまだ調査が必要である。

豊田雅信

三ヶ所の農村舞台それぞれに、趣がありおもしろかつたです。拝宮の白人神社の舞台は、オーソドックスなものに見えましたが、特に印象に残つたのは、最後に見た拝宮谷の舞台でした。あの、ひとが一人やつと通れる道をかき登つた山中に、何故できたのか、謎めいていて、しかも厳かな雰囲気があり、また訪れてみたい思いに駆られました。

田村典子

拝宮農村舞台に立つたとき 不思議といにしえの人々の 笑い声が聞こえた そんなにも楽しかつたのか そんなにも心豊かつたのかと 時代を遡つて 人々の憩いの空間が 私の中で よみがえつてきた

四季折々に美を醸し出す 豊かな自然と温かな人情に包まれてきたことが想像できる 拝宮農村舞台は 確かに現在にも人々の変わらぬ優しさが息づいていた 農村舞台の価値を認め 想いを込めて 何かを産み出そうとするとき 産み出したモノには 必ず魂が宿ると考える ところで出会える 新しい何かに大きな期待を持った そして微力ながらも自分が参加出来ることを有り難いとも思つた

大島和典

素晴らしい舞台で感動でした！守つて来

られた人々の見識と努力に深い敬意を表します。人形芝居公演実現という地元の方々の夢を、力を合わせ是非実現させたいですね。

徳島県郷土文化会館 岩朝利治

私にとつて農村舞台を見るのは初体験で、今回三ヶ所を回つて特に印象に残つたのはとどろの舞台でした。細い山道を登つていくミステリアスなアプローチの先に広がる農村舞台の広場・・・感激しました！建物は苔が付き老朽化しているものの、そばに流れる谷川や周辺を取り巻く木々は最高のロケーションです。まだまだ農村舞台初心者ですのでこれから数ある舞台を見学するのが楽しみです。

阿波人形浄瑠璃研究会青年座 玉井啓行

農村舞台は、三ヶ所ともそれぞれ、皆興味をそられるいい所でした（個人的には、最後の（轟でしたか？）神社が好きです。補修に費用がかかりそうので、とはいかないでしょうが・・・）。ただ、今回ははじめて顔をあわせた方々が多かつたので、参加者どうしの交流ももつとあつてもいいと思います。自己紹介など、お互いの顔と名前を覚えられるぐらいの時間があれば今後の活動にももつとプラスになるんじゃないでしょうか。僕は、出演する立場で参加したのですが、もつと出演希望の参加者が参加するべきだと思います。これから農村舞台を使つてイベントをするのに、もつとオープンにPRして参加者を募集してもいいのでは？ 拝宮の白人神社で公演するにあたっては、たぶん地元の人たちは準備が大変だったと思います。次回、開催するときは、イベント準備・開催のスタッフも募集して「農村舞台の会」が地元の人たちと一緒

にやるべきだと思います。お客さんの立場ではこの会の意味はないと思いますので・・・。

中川美恵子

拝宮の舞台見学会に参加してほんとうに良かつたと思います。セミの声を聞きながら、すばらしい自然の空気の中で、おごそかに建っている舞台、すつきりした屋根がとても美しく気に入りました。太夫座には「松に鶴」の透かし彫り欄間があり、片方が少し取れているのが残念でしたが、太夫さんを囲んだような幕があり、その頃の村の人たちの浄瑠璃への重いが伝わつてきそうな感じでした。ハリケーンジャックのお二人の演奏に踊る人形も、拝宮の人たちも、私たちも、何ともいえない、なつかしいような、ここちよい時間を共有できたように思います。ありがとうございました。昔、浄瑠璃を語つたという地元の方に「またぜひこの拝宮の舞台で演じてください」とお願いしてきました。山の中にひっそりとたたずむ轟神社の舞台も、谷川の中、神秘的で素晴らしい。個人的なことですが、偶然にも三十年ぶりに大田さん（拝宮の方）にお会いすることができ感激しました。

